

# 反改憲運動

## 通信 第8期

1部 200円  
2012.6.27 No. 02

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A  
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460  
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000円 (2012. 6~2013. 5)  
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 暴走する野田政権にストップを

野田政権は史上最悪の政権の1つとして、記憶されるにちがいない。原発再稼動と消費増税の強行。いずれも、民意に反する政治を平然と行なう。朝日新聞の世論調査でも、再稼動には54%が反対(賛成29%)、福井県内でも43%が反対(賛成36%)、消費増税法案には56%が反対(賛成32%)。だが、野田はまったく意に介さない。

そして、政治的決定に必要な正当化の論理は支離滅裂で、盗人にもある「三分の理」すらない。原発再稼動は福島原発事故からわずか1年あまりで、事故も収束されず、原因究明も終わっていない段階での強行だが、6月8日の声明には啞然とする。「国民生活を守るため」、「原発を止めたままでは日本社会は立ちゆかない」、「命の危険にさらされる人も出る」。これは、原発を推進してきた論理そのものだ。原発なしには経済も生活も成り立たないという論理からは、「脱原発依存」に向かいようがない。なぜ、脱原発依存なのかという理由を、一言半句語っていない。欺瞞でしかない。

消費増税も、同じだ。社会保障改革も逆進性緩和策も富裕層への課税強化もすべて棚上げして、税率引き上げ(2014年4月に8%に、2015年10月に10%に)だけを3党の談合で決め、法案の強引な成立を狙っている。

野田政権は、消費増税を人びとに受け入れさせるために「社会保障と税の一体改革」の看板を掲げた。だが、社会保障の強化は、消えてなくなった。パートの厚生年金加入の拡大は、適用範囲を当初の370万人から45万人に、さらに25万人にまで切り縮めた。税による最低保障年金(1人7万円)の導入は、貧困対策という面で評価できる政策であったが、あっさり立ち消えになった。新しく設けられる「国民会議」で議論するというが、自民党が猛反対するこの政策が、通るはずがない。社会保障のこれからのあり方を「国民会議」で時間をかけて議論するというのであれば、なぜ、消費税率の

引き上げの是非それ自体を「国民会議」で議論しないのか。

消費税率の引き上げは、所得の低い人たちにより重い負担をかける。だが、この逆進性の緩和措置も棚上げされた。給付付き税額控除(民主党)や食料品・生活用品への軽減税率(自民党)が提案されていたが、決まったのは低所得者への「簡素な給付」だけ。年収250万円以下の夫婦と子ども2人の世帯では、8%への税率引き上げでも7万円超の負担増になるが、言われている年4万円の給付ではとても追いつかない。増税しか眼中にない連中が真っ当な逆進性緩和の政策を行うはずがない。

さすがに、消費増税だけでは格好がつかない。そこで、野田政権は、富裕層への課税強化もやるということで、所得税の最高税率引き上げや相続税の納入者の拡大を、申し訳程度だが打ち出していた。ところが、これさえも3党協議であっさり先送りした。

こうして、野田政権は、まとっていた衣装をすべて剥ぎとり、赤裸々な消費増税政権として現われている。なぜ、ここまで来たのか。建前=理念の上では自民党は「家族による自助」(自己責任型社会)、民主党は「公助」(税による所得再分配の強化)と、正反対の方向を向いているはずだ。政治では、建前=理念は生命線である。その理念・原理の対立を消去して談合すれば、墮落しきった政治しか残らない。

これを「グローバル市場を無視できない」時代に「国民に痛みを強いる政策を『決める』ため」の「疑似大連立」だと讃える評価がある(朝日新聞6月17日)。冗談ではない。これは、権力を維持する(多数派の保持)ためだけの連立政治なのだ。その対極に、疑似的な理念を掲げた新自由主義の勢力(みんなの党、維新の会)が台頭しつつある。この不毛な二者択一状況を超えるために、私たちのラディカルな対抗政治の構築が求められている。(白川真澄/ピープルズ・プラン研究所)

▶「国旗損壊罪」なる刑法改正案が5月29日、自民党によって上程された。「日本国を侮辱する目的で国旗を損壊し、除去し、又は汚損した者は2年以下の懲役又は20万円以下の罰金に処する」という。自民党はその約1カ月前、「日本国憲法改正草案」を発表したが、その3条では「国旗は日章旗とし、国歌は君が代とする 2日本国民は、国旗および国歌を尊重しなければならない」としている。▶「日の丸・君が代」

# 憲法喧嘩

は尊重されねばならないし、侮辱した者は罰するといふのだ。「国旗国歌法」が成立した1999年、反対の声は大きく、政府も「国旗の掲揚に関し義務づけなどを行うことは考えておりません」と答弁した。大嘘だったけどね。で、13年後にはこれだ。▶植民地主義を象徴する「日の丸」と「君が代」への尊重規定と侮辱罪。こんなものを認める日本社会の一員という事実から逃れられないとすれば反対するしかないやね。(大)

## 〈7・16〉さようなら原発10万集会の成功へ！

5月5日以来の日本の全原発停止という状況が、6月15日の政府による関西電力・大飯原発の再稼働決定に伴い、新たな局面を迎えました。政府は夏の電力危機を声高に叫び、電力不安を煽りながら、国民の「安全・安心」よりも「経済」が優先されました。そして、伊方や泊などの原発の再稼働の動きも出てこうとしています。

この間、「さようなら原発1000万人署名」は、衆参両院議長、野田佳彦首相宛てに、国民の6%以上に当たる7,514,066筆を提出しました。その際、野田首相は、署名の直接の受け取りと大江健三郎さんら呼びかけ人との面会を「会いたくない」と拒否しました（官房長官に直接手渡す）。野田佳彦首相の姿勢がわかってしまうものです。しかし、3.11以降の国民の意識は大きく変化し、各種の世論調査でも、原発に否定的な意見が大半を占めるような状況です。国民世論は確実に草の根から変化しています。さらにそのことは、毎週金曜日の首相官邸前の行動や各地での集会などの盛り上がりからそのことを示しています。

原子力政策も、大飯原発の再稼働により弾みがつくものではありません。むしろ、原子力政策は方向性を見い出せてはいません。トラブル続きの六ヶ所再処理工場や高速増殖炉もんじゅなど、核燃料サイクル路線の破綻は明らかで、まして高レベル放射性廃棄物の最終処分場は見通すら立っていません。原子力政策大綱の議論も休止状態で、政府の方針を打

ち出しても具体的な現実がその中身を陳腐化させています。政府は現在、エネルギー・環境会議の中で2030年までに原子力の依存度をどのようにするかを議論しています。選択肢として、「0%、15%、20～25%」を提示しようとしています。その際、使用済み核燃料の政策が焦点となり、全量直接処分という再処理しない選択肢と、今まで同様の全量再処理と直接処分併用の路線選択が提示されようとしています。なおも破綻している核燃料サイクル路線に固執していますが、政策変更は避けられない状況にあり、政策議論のチャンスでもあります。

6月にはエネルギー・環境会議が「中間的整理」を取りまとめ、国民的議論を経て国家的戦略として決定しようとしています。2ヵ月ほどの短期間で国民的議論が深まるとは思えませんが、8月に向けて脱原発の国民的世論を盛り上げることは重要です。さらに夏から秋にかけて各省庁も予算策定の時期に入ります。また、原発の再稼働や夏場のエネルギー需給の議論そのものも俎上にあがる時期でもあります。

昨年の「さようなら原発集会」（東京・明治公園）は、朝日新聞の社説で「民主主義が動いた」と評価されました。本当の意味で、草の根からの大衆的な盛り上がりで、政治を変え、政策を変える運動の広がりが私たちに求められています。

（井上年弘／さようなら原発1000万人アクション事務局）

（※「集会・行動情報」欄参照）

### 報告▶「今なぜ再稼働？ 福井でつながろう」集会に2200人

6月16日午前、野田政権の「関係閣僚会合」が首相官邸で開かれ、大飯原発3、4号機の再稼働が最終的に決定された。同日午後から、現地では再稼働に向けた作業が再開され、7月早々には3号機の運転・発電が再開される見通しだとされる。当日の首相官邸前は、前日に反原発首都圏連合有志が呼びかけた行動に1万人以上が参加したのに続き、早朝から夕刻まで多くの人びとが駆けつけて、怒りと抗議が渦巻いた。

その日、夜には経産省前テントひろばが呼びかけた、17日の福井市での大飯再稼働に反対する集会・デモに参加するためのバスツアーが東京を出発。6台の貸し切りバスはすべてがほぼ満席となり250人の結集となった。

早朝6時過ぎには福井市に到着したバスツアーの一行は、午後9時から福井市社会福祉会館で「原発再稼働を許すな！

決定を撤回せよ 関西電力は再稼働をやめよ 福島・福井・伊方・東京圏他交流集会」に参加。集会には、地元福井の「サヨナラ原発福井ネットワーク」、伊方原発のある愛媛からは「原発さようなら四国ネットワーク」、そして「原発いらない福島の女たち」など福島の人も参加し、それぞれの地域の闘いの現状を報告した。福島の女性たちも福井の人びとも語っていたのは「原発を止めたらどうなる」という強迫観念であり、なかなか反対の声をあげにくいという現実だった。伊方原発反対運動に取り組んできた愛媛の人びとも、困難な状況の中で「一人一人が意思を持つことの重要性」を

訴え、6月10日に1300人が参加した行動に続き、8月19日には伊方再稼働に反対する大きな集会を企画している、と報告した。

鎌田慧さんも「交流集会」にかけつけ「再稼働決定は推進派自らが『墓穴を掘った』ものであることを明らかにするために民衆の力を積み上げ、7・16の10万人集会をさらに次の運動のステップ」にと呼びかけた。東京からは経産省前テントひろば、たんぼぼ舎、反原発首都圏連合、反原発自治体議員・市民連盟、再稼働反対！全国アクションが発言した。

正午から福井中央公園で行われた「いのちが大事 今なぜ再稼働？ 福井でつながろう」集会には地元福井以外にも関西、東海、関東などからの参加で2200人が集まった。小浜市の中島哲演さん、鎌田慧さん、元京大原子炉実験所講師の小林圭二さんらの発言、80人の「1分間アピール」など盛りだくさんの長い集会の後、2時半から福井県庁前を通り、中央公園に戻るデモ。大飯再稼働決定後の最初の行動であるこの日の福井集会は、全国の人びとが原発立地、福島の住民と困難さや思いを共有しながらともに歩んでいくことを通じて、運動のダイナミズムを発展させていくことの重要性をあらためて実感させた。

なお東京からの参加者を中心にして、翌18日には大飯原発への抗議行動、おおい町役場への申し入れなども行われた。（国富建治／事務局）



## 報告▶大盛況! ゆんたく高江報告

6月17日に上野公園野外ステージで第5回ゆんたく高江が、ピーカンの晴天の中開催された。前年のライブハウスでの反省を踏まえて、多くの人が気軽に楽しみ、参加しやすい野外の入場無料イベントを目指した今回は、天気にも恵まれ1000人を越える多くのひとたちが来場してくれた。会場後方に並ぶブースでは、高江住民の会をはじめ、韓国済州島ガンジョンのひとたち、経産省前とつきとおかの座り込み、2.9 堅川弾圧救援会など、いまのホットな場所を伝えるブースがひしめき、さまざまな現場からの出店が高江のひとたちと交流を深め合っていた。高江のパンを使ったパン酒、高江の草木で染めたTシャツ、高江で加工したパンや食材。こんな現地とのつながりを実感しながら聴く、高江にゆかりのあるアーティストたちのライブは、高江に行ったことのある人もない人も、また偶然このイベントに訪れた人たちも、高江をとて身近に感じたのではないかと思う。去年のゆんたく高江にも出演したジントラムータの演奏する「不屈の民」に、会場のひとびとは立ち上がって踊り、うたっていた。ゆんたく常連バンドの寿、高江によく遊びに行く元たまの知久寿焼さん、沖縄コザ出身のブルースシンガー・知念良吉さんも、それぞれの高江への思いを歌で伝えてくれた。今回は東京のエイサー隊も参加し、上野に沖縄の風が吹いたようだった。

会場には入れ替わり立ち替わり上野公園で遊んでいた家族

連れやツイッターなどのネット情報でイベントを知ったひとたちが訪れ、ステージ横に設営したキッズスペースにも子どもがあふれててんやわんや。ライブの転換時間におこなった「なるほど! 高江クイズ」では、オスプレイの横幅が何メートルあるか? のクイズの答え、25mに会場は驚きの声をあげていた。この大きさを実感するために作った原寸大の布を会場に広げてまたびっくり。会場に走り回る子どもたちをみながら、こんなに大きくて墜落してばかりのオスプレイを配備することは、人の生活を、こどもの未来を無視していると思わざるをえなかった。

てんて盛りの熱いライブパフォーマンス、各出店団体からのアピール、住民の会のトークも終わり、最後は住民の会+ゆんたく高江スペシャルバンドが登場。三線で高江保育園園長が自作曲「夢の輪」をうたい、エレキ・フォークのギターやジャンベ、カホンとコーラスが入る。「あきらめないで夢を見よう 無理しないで歩こう♪」。皆でコーラスし、会場の人が次々とステージに上がり、エイサー隊やほか出演者たちも集まり、カチャーシーが始まった。そう、無理しないで夢の輪を広げていこう、少しずつつながり続けながら歩いていこう。高江で私がたくさん素敵な出会いをもらったように、今回のゆんたく高江が素敵な出会いの場になったなうれしい。

(ほしのめぐみ/ゆんたく高江)

## 報告▶討論集会「がれき問題の今——根拠のない絆キャンペーン」

### 福島原発事故緊急会議

6月16日土曜日の夜、文京区民センターにて福島原発事故緊急会議主催の討論集会「がれき問題の今——根拠のない絆キャンペーン『放射能を拡散しない』と『被ばく最小化』が大原則!」が開かれ、40人が参加した。

講師は環境ジャーナリストの青木泰さん。長くごみ問題にかかわってきた環境ジャーナリストで、3.11以降、放射能がれきの広域処理に反対し、静岡、北九州、富山など全国各地で講演をおこないながら、がれき受け入れ反対の住民たちをサポートしてきた。

この日の講演で、青木さんは、週刊誌や新聞の論調はすでに広域処理反対が主流になっていることを紹介し、政府のがれき広域処理政策はすでに崩壊過程に入っていると話した。しかし一方で、環境省はそう簡単には「広域処理」の看板を手放さないだろうという。その理由のひとつは、地元で処理すれば5000億円で済むのがれき処理費用に、広域処理名目で1兆円の予算を獲得しているからだという。5月に実施されたがれき量の再計算では、宮城県、福島県のがれき推計量が下方修正されたのだが、青木さんは、このとき岩手も同様に下方修正されていれば広域処理政策は一貫の終わりだっただろう、一県のみ推計量が増えた根拠を追及しきれなかったと、残念がった。

青木さんの話はその後、バグフィルター問題、鹿島J Vの2000億円の契約、草木ごみ焼却による放射能濃縮問題など

多岐にわたった。どの切り口からも、広域処理政策の間違いが明らかにされていった。青木さんは、焼却施設からの排ガスに含まれる放射能「不検出」は「ゼロ」とは違う、本格的に焼却がはじまれば莫大な量の排ガスが放出されるのだから、わずかな数値でもけっして安全とは言えないはずだと話す。そしてせっきくの非汚染地域は、避難者を受け入れ、安心できる食材を供給できる場所にすべきだと主張した。

後半の質疑に入る前に、主催側の要望にこたえて、被ばく労働の現場で働いた経験を持つ中村光男さん(被ばく労働ネットワーク)が、労働現場の実情を語った。中村さんによれば、下水道処理施設や焼却炉の保守点検の作業現場では、被ばく対策はほとんど行われていないという。周辺の放射能数値も十分に提供されないなかで、自分たちは調査能力がないところが決定的な弱点であり、今後はさまざまな社会運動の関係者とつながっていきたくと話した。

「広域処理政策は崩壊過程に入った」といっても、現実には北九州、大阪などで首長が受け入れを決定し、東京では焼却実施が23区から多摩地域へ拡大するなど、がれき処理の広域化は着々と進行している。今回の集会では残念ながら、参加者との十分な討論まではできなかったが、今後も被災地で暮らす人たちや、実際に作業に携わる労働者たちの視点も持ちながら、この問題に取り組んでいきたいと思う。

(海棠ひろ/福島原発事故緊急会議)

## 報告▶「生まれ変わった東電」=脱原発「東電株主総会」

6月17日東京電力模擬株主総会が千駄ヶ谷区民会館で開催されました。

スタッフと参加者合わせて160名と、これまでの同種の総会とは一線を画した規模になりました。

それもそのはず、今総会を持って、東京電力は事実上一般の民間上場企業としては消滅し、実質的な国有（国家管理）会社になるからです。

これは会社側の提案議案として提出されるのですが、なにしろ専門的すぎる内容なので一般にはほとんど分かりません。

ポイントは「優先株式の発行」。これは原子力損害賠償支援機構（支援機構）からの支援金、つまり原発震災により生じた多額の補償を行えば、たちまち資産を上回り債務超過に陥る、いわゆる破綻会社である東電に対して、税金を「優先株発行」として注入するために存在する議案です。公的資金を資本金として受け入れて株式を発行するため、発行株式数が極端に膨らみます。これは支援機構に要請し経産大臣により5月9日認定された「総合特別事業計画」に基づく再建計画にあります。これも総会の大きな焦点になります。

私たち脱原発東電株主運動が提案する議案との一番大きな違いは、支援機構とで取り決められた事業計画による実質国有化か、あるいは破たん処理しての賠償か、そういう点です。ただ、この違いは、普通に会社側議案書を読んでも株主提案議案を読んでも理解できないほどの難解さなのです。

それで、模擬総会ではそれを極力わかりやすく説明することにしました。

事業計画に基づけば、原発の再稼働は織り込み済みだし、大幅な値上げも予定されています。私たちは、これらをしなくても大丈夫との提案を掲げます。

また模擬総会では「営業報告」などの議事進行を例年の例に合わせて行いました。ただし、模擬総会ですから木で鼻をくくったような取締役の説明はそのまま行いますが、これに対する株主側の反発が当然ながら起きます。

本物の総会だと全体の過半数を優に超える株式を保有する「大株主」の代理人がいて、それがことごとく会社側に立って採決行為を行うので、いかなる議案も動議も通りませんが、今回の模擬総会は「あるべき総会」ですから、どんな大株主も「一人一票」。従って、強引な議事進行を続ける勝俣会長役の議長は「解任」され「あるべき議長」役として脱原発弁護団全国連絡会代表の河合弘之弁護士が議長となりました。

交代直後に河合議長は「取締役、勝俣会長の呪縛から解かれ、以後は模範解答をするように。」と宣言しました。

その後は、事故処理の現状や、被災した住民への補償交渉では「あるべき東電」の姿として、会社の破たん処理を行っての損害賠償金の捻出、発送電分離や独占の解体による組織、資産の変更、本当ならば「とっくにしているべき」という回答が取締役から続きます。

最後には「あるべき東電の姿勢」が議長と取締役から語られ、満場の拍手で総会は終了しました。

本当の株主総会は6月27日に国立代々木第一体育館で開催されます。  
(山崎久隆／たんぽぽ舎)

### ◆原発を読む◆『福島原発の真実

### 最高幹部の独白』

今西憲之、週刊朝日取材班 著／朝日新聞出版／1200円＋税

ある種の強い感動の気持を持って、最後のページにまでたどりついた。

私はルポライター今西憲之＋週刊朝日取材班の、この間の福島事故「現場」レポートは、『週刊朝日』に掲載されるつど、できるだけ読み続けてきた。それに収められた写真と「最高幹部」へのインタビューを中心に組み立てられた記事は、政府・東電一体化した「まだ安全・安心」といった操作的情報があふれかえっているマスコミ状況に、風穴をあける〈真実〉の危機にリアルにせまる迫力にみちたものだったからである。

それらのレポートが書き直され、書き加えられ、一冊の本にまとめられたのが本書である（写真がほとんど使われていないのが残念であるが）。予想通り、「最高幹部」を含めた事故現場の労働者たちの文字通りの「命をかけた」努力によって、事故の拡大（大量な放射能の拡散）にブレーキがかけられ続けている様が、「本社」（東電トップ）と政府（菅から野田政権）の政治家や官僚たちが、〈3・11〉以後も、人びとの命よりも政治家官僚のメンツ（手柄話づくり）や企業利害のほうを優先する人間にすぎない事実が、刻々と移る事故現場をめぐる対応において具体的に確認されている。

この事故をうみだした責任者たちである政治家、企業トップ、官僚、御用学者の信じがたい〈無責任〉体制は、事故後もまったくそのままである。そのことが手に取るようにわかる。それとの対比で吉田所長を中心とした「フクイチ」の幹部たちの、この過酷事故を起こしてしまったことへの強い〈責任感〉から、高放射能が飛び交う事故現場での作業が続けられ

ていることが、リアルにレポートされて、胸を打つ。〈無責任〉と〈責任〉の、なんというコントラスト。

下請けの現場作業員を含めた彼らの責任感からの必死の作業の持続がなかったら、すでに地獄にたたき落とされている私たちは、地獄の底を抜いて、さらに落下する事態に放り込まれてしまったことは、間違いないのだ。

内部の現場に足を運びつづけた、長い闘いの渦中にある「幹部」のコメントを引き出した、本当に貴重なルポである（情報が隠され続けている状況のなかで、どうしてそれが可能になったのか、そのプロセスもレポートされている）。

「最高幹部」の名は、オープンできない状況に変化はない。そして、事故現場（最近ではマスコミではほとんど報道されなくなっているが）は、今でも危機一髪でなんとか回避、の状況は続いていること。さらに時間とともに地震と津波で破壊された4つの原発は、土台や壁がいつまでもつかという不安を拡大させていることはまちがいないであろうことは、〈3・11〉以降1年たらずの時間しかフォローしていない本書を読んでも十分理解しうる。

本書のなかにちりばめられた日誌の11月26日にこうある。「吉田所長が12月1日付で所長職を退くと発表（12月9日に食道がんと公表）」（傍点引用者）。著者はこの件にまったくコメントしていないが、12年2月までに公表されている死者6人の作業現場でなにがあったのかは、読者には手に取るように予想できるはずである。

(天野恵一／事務局)



# 反改憲ニュースクリップ

2012年6月12日～6月22日

## オスプレイ再度の墜落事故で 配備反対論強まる

【6月12日】〈自衛隊〉陸上自衛隊のレンジャー隊員養成訓練のため、小銃を携帯した迷彩服姿の陸自隊員が東京都板橋区と練馬区の市街地を徒歩で行進。武装して都内の市街地を行進するのは、1970年から42年ぶり（本誌前号参照）。

【6月13日】〈オスプレイ〉米空軍の垂直離着陸輸送機 CV-22「オスプレイ」が、米フロリダ州のハールバート・フィールド航空基地内の射爆場で墜落事故を起こし、5人が負傷。

【6月14日】〈オスプレイ〉山口県の二井関成知事が防衛省で森本敏防衛相と会談し、オスプレイの米軍岩国基地への陸揚げについて「反対と言わざるを得ず、（同省による）申し入れも棚上げしていただきたい」と伝える。

【6月15日】〈自衛隊〉防衛省が、北朝鮮による4月の「衛星」発射について、同省の対応に関する検証報告書を公表。海自イージス艦のレーダーが発射を探知できなかった反省を踏まえ、「北朝鮮により近い海域への艦艇の配置も検討すべきだ」と明記した。

【6月16日】〈原発再稼働〉政府が、関西電力大飯原発3、4号機の再稼働を正式に決定した。

【6月17日】〈オスプレイ〉米軍普天間飛行場へのMV-22「オスプレイ」配備に反対する宜野湾市民大会が開かれ、5200人が参加。

【6月18日】〈原発再稼働〉「脱原発をめざす首長会議」（全国の市町村長ら73人が参加）が、大飯原発再稼働への抗議文を政府に提出。

【6月19日】〈原発政策〉原子力委員会が原発推進側だけを集めて開いた「勉強会」と称する秘密会議で、核燃サイクル見直しを検討していた原子力委小委に提出予定の4つのモデルケースのうち、高速増殖炉推進に不利なシナリオを隠すことを決めていたことが分かった。また、この秘密会議に関連して、原子力委員会の「新大綱策定会議」のメンバー4人が、核燃サイクル見直しに関する小委報告を政府の「エネルギー・環境会議」に提出しないよう求める要望書を内閣府に提出した。〈公務員の政治活動〉大阪市が、市職員の政治活動を国家公務員なみに規制し、2年以下の懲役などの罰則規定を盛り込む全国初の条例案を検討している問題で、政府が罰則規定などは「地方公務員法に違反する」との見解を閣議決定。

【6月20日】〈消費増税〉民主党は、社会保障と税の一体改革関連法案に関する民主・自民・公明の合意を受けて、両院議員懇談会を開催。議員からは合意への異論が相次いだが、

首相と興石東幹事長への一任を宣言して質疑は終了した。

〈原発政策〉原子力規制委員会設置法案が、参院本会議で民主・自民・公明3党などの賛成多数で可決・成立した。また、自民党の提案によって、原子力基本法に「我が国の安全保障に資する」との目的を追加する改悪がなされた。〈原発政策〉原子力安全・保安院が、7月に運転開始40年となる関西電力美浜原発2号機について、10年間運転を延長することを正式に了承。〈原発都民投票〉市民団体「みんなで決めよう『原発』国民投票」が東京都に直接請求した原発再稼働の是非を問う住民投票条例案が、都議会本会議で反対多数で否決された。

請求には32万人の署名が集まっていた。〈日米安保〉米ジョージ・ワシントン大学の国家安全保障アーカイブが、湾岸危機当時の1990年8月に米国が日本に自衛隊の多国籍軍参加を強く迫っていたことを示すブッシュ米大統領（当時）と海部俊樹首相（同）との電話会談の記録を公開。〈宇宙軍事利用〉宇宙航空研究開発機構（JAXA）に関する法律から、業務を「平和の目的に限り」行うとした規定を削除する改悪案が、参院本会議で民主・自民・公明・みんななどの賛成多数で可決・成立。〈公務員の政治活動〉大阪市の橋下徹市長が、地方公務員の政治活動に関する前日の閣議決定を受け、条例案に罰則規定を盛り込むことを断念し、政治活動をした職員を原則として懲戒免職とする規定を盛り込む方針を決めた。

【6月21日】〈福島原発事故〉原発被災者支援法案が衆議院で可決・成立。法律は、被災者の幅広い支援、人々の在留・避難・帰還を選択する権利の尊重、とりわけ子どもの健康影響の未然防止、健康診断および医療費減免などを盛り込んでいる。〈原発政策〉原子力委員会は、核燃料サイクルについて原発依存度に応じた政策を選択すべきだとの見解を決定。全量再処理の国策が転換される可能性が出てきた。また、同委は、原発推進側だけによる秘密会議への批判を受け、原子力政策大綱の策定会議について、当面審議を中断すると正式決定した。〈原発輸出〉リトアニア議会が、同国が計画しているビサギナス原発の建設事業権について、日立製作所と契約することを賛成多数で承認。海外受注は福島原発事故後、初めて。〈軍事演習〉海上自衛隊と米韓海軍による本格的な合同軍事訓練が韓国・済州島南方の海域で始まる。米空母ジョージ・ワシントンも参加。〈海自いじめ訴訟〉2004年に海上自衛隊の護衛艦「たちかぜ」の元乗組員が自殺した問題で、海自がこれまで「存在しない」としていた、いじめの有無を調べた他の乗組員へのアンケート結果が見つかったと海自が発表。

【6月22日】〈原発再稼働〉首相官邸前で「首都圏反原発連合」が主催した大飯原発再稼働に抗議する集会に4万5000人（主催者発表）が参加。〈表現の自由〉東京の新宿ニコンサロンで予定されていた従軍慰安婦をテーマにした写真展開催を、会場運営者のニコンが「政治活動の一環である」として拒否する通告をしていた問題で、名古屋市在住の韓国人写真家・安世鴻さんが施設使用を求めて行った仮処分申請について、東京地裁が安さんの申し立てを認める決定を出す。（本誌前号参照）

### 事務局から～

事務局にはスタッフが常駐していません。ご連絡の際にはファクシミリ、お葉書が確実です。特に転居の際にはご連絡ください。よろしくお願いします。

# 12 私も一言 154

野平晋作 (ピースボート)

## 未来の世代への責任

最近、日本国憲法を読み直して気づいたことがある。それはこの憲法が現在の国民だけでなく、未来の世代をも対象にして書かれてあるということだ(不勉強で申し訳ありません)。第11条や第97条を読むと、「この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在および将来の国民に与えられる」と書いてある。

2011年3月11日の東日本大震災と福島原発事故以降、未来の世代に対する責任ということを私はよく考えるように

なった。そのせいで、何度も読んだことがある憲法なのに、今になって「現在および将来の国民」という文言が目につくようになったのだろう。

国家が抱える巨大な借金未来の世代への大変なツケではあるが、処理することができない放射能汚染を残すことほど未来の世代に対して罪の重い負の遺産はない。そんなことを考えているとき、福山雅治さんの「生きてる。生きてく」という歌に出会った。

「こんな僕の人生の いい事や駄目な事が 100年先で頑張ってる 遺伝子に 役に立てますように いまを生きてる」という歌詞が3.11以後の世相を象徴しているような気がした。遺伝子という言葉は本質主義的な印象を与える言葉で問題もあると思うが、未来の世代のことを考えながら今を生きようというメッセージとして、この歌詞を私は受け止めた。

この歌は映画「ドラエモン」の主題歌らしいので、タイムマシーンを使って未来と現在を行き来するのび太やドラエモンのことを考えて作られたのだろう。でも、3.11の教訓としてこの歌を聴いてもいいのではないかと思う今日この頃である。

## 集会・行動情報 6/30 ~ 7/16

▶6/30(土) オスプレイは沖縄にも横田にもいらない6・30行動◆14:00~◆福生公園(JR青梅線牛浜駅下車)◆同行動実行委員会(連絡先:立川自衛隊監視テント村)

■STOP原発再稼働! 6・30おい集会◆13:00~◆あみーじゃん大飯ふれあいホール(JR小浜線若狹本郷駅下車)◆呼びかけ:STOP大飯原発再稼働現地アクション(代表・長谷川羽衣子)◆連絡先:090-8124-4945

■シンポジウム[核と先住民族]◆資料代1000円◆話題提供者:豊崎博光、細川弘明、満田夏花、木村真希子、司会:越田清和◆フィルム上映「Out of Site, Out of Mine」◆13:30~◆明治学院大学白金キャンパス2号館2101(東京メトロ南北線、都営地下鉄三田線白金台駅ほか)◆共催:先住民族の10年連絡会、アジア太平洋資料センター、市民外交センター、明治学院大学国際平和研究所

■沖縄・宮森小学校米軍ジェット機墜落事故から53年 普天間基地へのオスプレイ配備の危険~構造的沖縄差別を問う~◆資料代1000円◆講演:新崎盛暉、報告:早川由紀美◆18:30~◆文京区民センター2A(都営地下鉄春日駅下車)◆宮森6・30を伝える会

▶6/30(土)~7/1(日) 第1回ふくしまフォーラム 震災と放射能汚染後をどう生きるのか◆資料代:1000円◆6月30日(土)10:30~全体会(いわき市文化センター)、13:30~分科会(いわき市文化センター、いわき市労働福祉会館)◆7月1日(日)9:00~分科会(いわき市労働福祉会館)、11:30~全体会◆ふくしまフォーラム実行委員会(0246-68-8925、事務局:NPO法人いわき自立生活センター)

▶7/1(日)ダッ!ダッ!脱・原発!! ☆制服向上委員会と武藤類子さんのライブ&トーク◆資料代:500円◆13:30~◆静岡労政会館6Fホール(JR静岡駅北口下車)◆脱原発静岡連絡会

■反原発デモ in 横浜◆15:30集合、16:00デモ出発◆

JR桜木町駅前広場◆Twit No Nukes神奈川(090-9849-8064、こが)

▶7/7(土) 沖縄戦を考える練馬の集い2012 沖縄復帰40年と沖縄戦<米軍・自衛隊・民衆意識>◆資料代500円◆講演:前泊博盛◆開場13:40◆練馬区役所石神井庁舎5階会議室(西武池袋線石神井公園駅南口下車)◆沖縄を考える練馬の集い実行委員会

■全原発を廃炉に! 反原発デモ 原発0へ!再稼働反対!2012年をエネルギー政策転換の年に!!!!◆集会15:30~デモ、集会2部17:30~◆代々木公園けやき並木(JR山手線原宿駅、渋谷駅下車)◆NO NUKES MORE HEARTS

▶7/11(水)女性と天皇制研究会連続講座第4回「長谷川テル」◆参加費800円◆レポート:首藤久美子◆19:00~◆琉球センター・どうたち(JR山手線駒込駅下車)◆共催:女性と天皇制研究会・琉球センターどうたち

▶7/15(日)公開研究会 脱原発のエネルギー政策へ◆資料代、1000円◆講師:阿南久、高橋洋、伴秀幸◆14:00~◆連合会館2階大会議室(東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅下車、旧総評会館)◆原子力資料情報室

■全国交流集会 脱原発をどう実現するか 福島ほか各地からの報告提起◆資料代500円◆講演:金子勝◆18:00~◆連合会館2階大会議室(東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅下車、旧総評会館)◆はんげんぱつ新聞

▶7/16(月・休日)さようなら原発10万人集会◆メインステージ12:30~オープニングコンサート、13:00メイン集会、13:30パレード出発 サブステージ11:00~15:00◆代々木公園イベント広場・ケヤキ並木・サッカー場(JR原宿駅、渋谷駅、東京メトロ明治神宮前駅、代々木公園駅下車)◆さようなら原発1000万人アクション実行委員会